

わたしのゆめ

福岡市立今宿小学校*二年 川添 美仁唯

わたしは、大きくなったらじよさんしさんになりたいです。おとうとがうまれた時にそ
う思いました。

なぜかというと、ママに赤ちゃんができて
から、いっしょにエコーを見たり、おさんの
ことや赤ちゃんの話をじよさんしさんに教え
てもらい、

「先生もすこいけど、じよさんしさんって
ママと赤ちゃんをいばんに思ってくれている
んだなあ。かっこいいなあ。」
と、思ったからです。

おとうとがうまれる日、わたしも立ち会い
をしました。ママがじんつうにくるしんでい
る時、じよさんしさんがずっとママにこえを
かけながら、やさしくよりそってくれていま
した。そのすがたを見て、わたしは、

「ママのおかあさんみたい。じよさんしさ
んは、ママをたすけてくれているんだ。」
と思いました。わたしもママに、
「がんばれー。あともうすこしだよ。」
と、手をにぎっておうえんしました。

「おんぎゃー、おんぎゃー。」
おとうとがうまれた時、今までにかんじた
ことがないくらいのおあわせと、むねがいつ
ばいの気もちになりました。まわりを見ると、
みんなよろこんでいました。ママは、なみだ
をポロポロながしながら、にこにこわらつて
おとうとを見つめていました。わたしは、

「じよさんしさんになりたい。」

と、その時つよく思いました。自分の気もち
をママとおとうとをたすけてくれたじよさん
しさんにつたえると、

「じよさんしさんのことをえいこで、ミッ
ドワイフと言います。ミッドは、あいだ。ワ
イフは、女の人、おくさんというみです。
つまり、じよさんしさんは、人の中にいて、
たすけてあげることがおしごとなんだよ。」
と、教えてくれました。

わたしは、この話を聞いて、おべんきよう
も大切だけど、人のいたみ、よろこびを分かっ
てあげられる人になることがいばんだと思
いました。だから、自分のかぞく、おともだち、
まわりの人たちを大切にしようと思います。
そうすれば、どんな時もあいての気もちを思
いやり、よりそうところをわすれないじよさ
んしさんになれると思うからです。

ママとおとうとをたすけてくれたじよさん
しさん、わたしやいもつと、おとうとをうん
でくれたママに、

「ありがとう。」
という気もちをわすれずに、ゆめをかなえる
ためにがんばっていきこうと思います。